

メガボンドによる押出成型セメント板への タイルの施工要領

日 藻 工 材 株 式 会 社

〒174-0043 東京板橋区坂下2-13-18

TEL03(5392)1007

メガボンド施工要領

1. 適用範囲

この施工要領はタイル下地専用押出成型セメント板に対してのタイルを張付けする際の施工方法に適用します。

2. 材料の保管

材料の保存期間：密封状態で製品受取後2ヶ月以内とし、開封後は直ちに使用して下さい。

材料の保管場所：屋内に保管して下さい。但し、コンクリート面に直に置く事は避けて下さい。

又、水濡れは厳禁です。

3. 作業条件

- ① タイル張り下地として適応する押出成型セメント板は必ず、表面に蟻溝を設けたタイル下地専用押出成型板を使用して下さい。
- ② 作業時の気温は5℃以上40℃以下として下さい。
- ③ 施工時に直接雨が当たらないようにし、強風や直射日光はオープンタイムが短くなります。シートを張る等の必要な養生をして下さい。
- ④ 塗付け後は早期に乾燥する恐れのある場合は、シート掛け等による適切な乾燥防止策を講じて下さい。
- ⑤ 冬期は塗付け後、早期に降雨、降雪に遭うと、白華の発生や夜間の気温低下により、凍害を受ける恐れがありますので、十分な養生と作業を早めに切り上げる等の対策を講じて下さい。
- ⑥ 使用する水は、すべて水道水として下さい。
- ⑦ タイルは磁器・石器質の50角・50二丁か50三丁までのモザイクタイル・小口平タイル・二丁掛けタイルが望ましい。

表-1 押出成型板の商品名とタイル下地専用板例

製造業者	品名	タイル下地専用押出成型板
旭化成建材	ハイブリート	TBシリーズ
アスク	バンビ	NATシリーズ
昭和電工建材	ラムダ	LATシリーズ
ノザワ	アスロック	タイルロックシリーズ
三菱マテリアル建材	メース	MTシリーズ
アサノサイネックス	サイネックス	SBシリーズ

4. 作業手順【A.改良圧着張り工法(小口平タイル・二丁掛タイル)】

(1) 下地の点検

a. 押出成型セメント板の取付けの不備・シーリングの良否を確認して下さい。

b. 段差及び欠け面の補修

接着増強剤の5倍希釈液を塗布し、メガボンド20kgに珪砂10kgを加えたもので補修処理をして下さい。

(2) 下地の清掃

下地表面のゴミ・ホコリ・切削時の粉塵等を、ブロアーやブラシを使用し、触った時に手についてこない程度まで取り除いて下さい。

(3) 墨出し

押出成型セメント板へのタイルの割り付けは、押出成型板1枚の中へタイルを割り込む方法を原則としていますが、やむをえず押出成型セメント板の目地をまたいでタイル割り付けを行う場合は、一般に押出成型セメント板2～3枚以内を一本化し、その中でタイルを割り付ける方法が採られています。

(4) メガボンドの下コスリ

やや軟からめに練ったメガボンドモルタル(メガボンド20kg・水6.5ℓ)で押出成型セメント板の蟻溝に空隙が出来ないようにコテ圧をかけ、2～3mm厚にコスリ塗りをして下さい。

※一度に塗付ける面積は、1時間以内にタイルを張り終える程度として下さい。

(5) タイルの張付け

a. 張付けモルタル

メガボンド20kgに対して水6ℓを入れ、ハンドミキサーを用いてダマのなくなるまで混練りします。

※練り置き時間は1時間以内として下さい。

b. 下コスリ面のしまり具合を確認しつつタイルの裏面全体にメガボンドを3～4mmの厚さになる様に均一に塗付け、直ちにタイルをたたき押えをして張付けます。

c. タイル張りを終了した後、目地の通りを確認し、目地部の盛り上がったモルタルを木の棒・ササラ等を用いて除去しておく。

(6) タイル目地詰め

a. 事前点検

目地の通り、タイルの凸凹、色合いを点検し、異常のない事を確認して下さい。

b. 目地モルタル

設計図書もしくは、監督者の指示に従い、市販の目地セメントを使用して下さい。

c. 目地詰め

タイル張付け後、1日以上経過した後、接着モルタルが完全に硬化してから実施して下さい。

d. 前処理

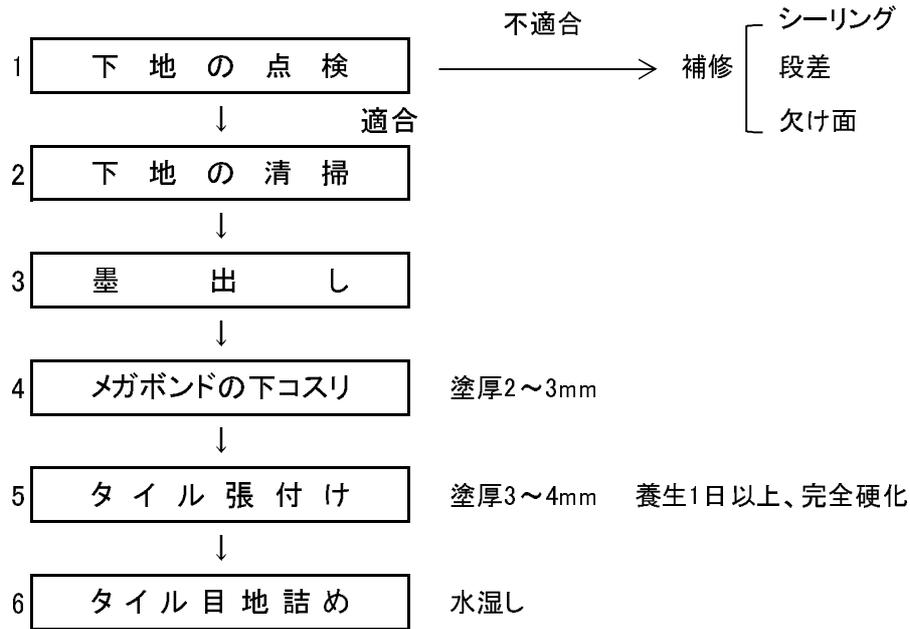
目地詰め時には、接着モルタルが乾燥しております。水湿しを必ず実施して下さい。

e. 清掃

目地詰め後、速やかに水で濡らしたスポンジ等で、入念に目地セメントの付着物を拭き取ります。

※清掃後もタイル表面に着しい汚れが残る場合は、係員の承諾を得て、酸洗い(工業塩酸の30倍希釈液)を実施して下さい。但し、酸洗い前に十分に水湿しを行い、尚且つ酸洗い後、散水を繰り返し酸が残留しない様にして下さい。

工程図



4. 作業手順【B密着張り工法(モザイクタイル・小口平タイル)】

(1) 下地の点検から(3)墨出しまでの施工手順は前項に同じ

(4) メガボンドの下コスリ

塗厚1.5~3mmに1回の塗付け面積を30分以内にタイル張りを終了する面積とし(2~3㎡)コテ圧を十分かけて塗付けて下さい。

(5) タイル張付け

①下コスリに続いて2~3mm厚に塗り重ね、直ちにタイルを張付けます。この場合、タイルはたたき板や振動工具(ビブラート)を用い、タイルをモルタル中に埋め込むように十分に圧着して下さい。

※◎張付けモルタルはメガボンド20kgに対して水6ℓを入れ、ハンドミキサーを用いダマのなくなるまで混練りします。練り置き時間は1時間以内として下さい。

◎くし目ゴテでくし目をたてるとタイル裏面全体へモルタルが行き渡り難しくなります。クシ目を立てないで下さい。

◎天候によっては短時間で皮張る場合があります。タイル裏面の付着具合を確認しつつ早め早めの作業をして下さい。

この場合、2度目の重ね塗りの面積を小さくすると有効です。

②ユニットタイルの紙剥がし

ユニットタイルを張付けた後、速やかにスポンジ・霧吹き等で水を含ませ、紙を剥がします。目地直しは、接着モルタルの軟らかいうちに行い、タイル配列の修正後は、その部分を再度入念にたたき押えて下さい。

※接着モルタルの硬化が進行してから目地直しは、タイルの接着を損ねます。掻き落として再度張り直して下さい。

③目地の清掃

タイルの張付け後、しまり具合を見計り先端の尖った細いものを使用して、目地の清掃を行って下さい。

(6) タイル目地詰め

a. 事前点検

目地の通り、タイルの凸凹、色合いを点検し、異常のない事を確認して下さい。

b. 目地モルタル

設計図書もしくは監督者の指示に従い、市販の目地セメントを使用して下さい。

c. 目地詰め

タイル張付け後1日以上経過した後、接着モルタルが完全に硬化してから実施して下さい。

※タイルの表面が粗面や、凸凹の場合は、塗り目地ではなく1本目地埋めとして下さい。

d. 前処理

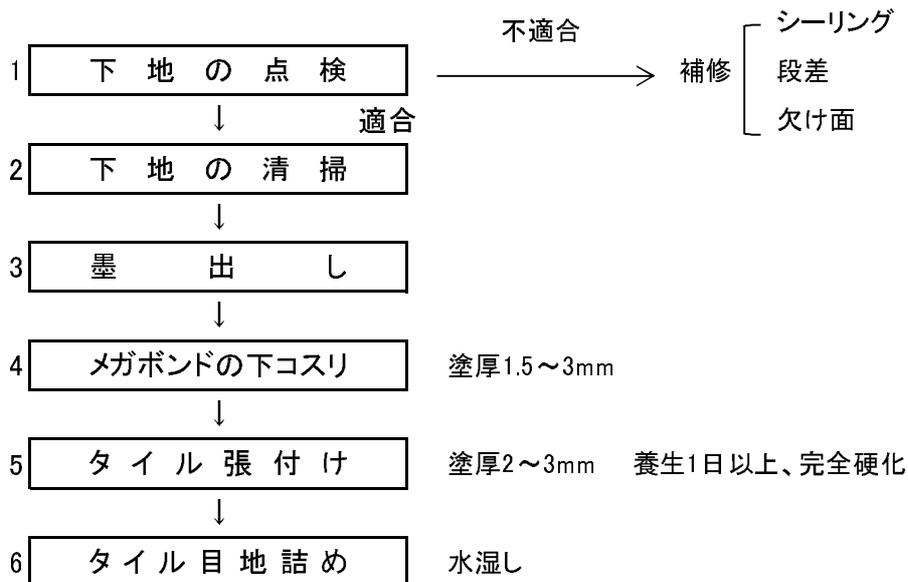
目地詰め時には、接着モルタルが乾燥しております。水湿しを必ず実施して下さい。

e. 清掃

目地詰め後、速やかに水で濡らしたスポンジ等で、入念に目地セメントの付着物を拭き取ります。

※清掃後もタイル表面に著しい汚れが残る場合は、係員の承諾を得て、酸洗い(工業塩酸の30倍希釈液)を実施して下さい。但し、酸洗い前に十分に水湿しを行い、尚且つ酸洗い後、散水を繰り返し酸が残留しない様にして下さい。

工程図



尚、以上の要領につきましては、作業条件等により協議の上、変更する場合があります。

又、工法につきましては、係員と協議の上、タイルの種類・形状・大きさを考慮して選択して下さい。